



行事の見直しによる日常保育の 充実に向けた取り組みについて

～「イキイキ・ワクワク・ドキドキ」の実現へ～

社会福祉法人伸晃会
ろっくひよこプリスクール

新型コロナ令和2年2月26日に厚労省から「卒園式・入園式等の開催に関する考え方について」の通知により、卒園式の内容見直しをきっかけに、様々な通知やガイドラインが発表され、新型コロナの感染拡大防止対応と並行してすべての行事を見直す必要が出てきた。

行事は全てゼロベースで見直され、どのような形態であれば開催できるか、内容を変更しても開催するのが困難なものはいかなどが検討された

令和2年5月22日の「登園自粛要請の終了に伴う当園の対応について」のお便りにて、行事の見直し等が保護者に周知された

行事の見直しにより増加した通常保育の時間を有効活用するために、それぞれの学年、3歳以上児クラス、3歳未満児クラスの各カテゴリーで、アイデアを出し合い様々な取り組みが企画実践された

日々の保育の時間を充実させることによって、子どもたちにどのような変化が生まれ、効果があったのかを振り返り、今後の行事の在り方の参考にするためにこの報告書を作成した。



学年別日常保育を充実させるための具体的な取り組み

※具体的事例については、2歳児と4歳児の取り組みを紹介

1歳

- ・肯定的な言葉掛け
- ・手作り玩具
- ・コーナー遊び
- ・スキンシップ

2歳

- ・ワクワクする新たな遊び
(小麦粉粘土・
ボディーペインティング)
- ・夏祭りごっこ(輪投げ・魚釣り)
- ・コーナー遊び

3歳

- ・安心してチャレンジできる
環境・雰囲気作り
- ・保護者との連携
- ・子どもの興味ある事を一緒に体験

4歳

- ・生活しやすい環境構成
- ・玩具の選択、コーナー作り
- ・虫の図鑑作成
- ・机で遊べる玩具の充実

0歳

- ・子どものリズムに合わせる
- ・優しく接する
- ・スキンシップ
- ・温かい雰囲気作り



5歳

- ・集団遊び
- ・がんばり表作成
- ・みんなの前で発表する
機会を設ける

○ボディーペインティング

- ・真夏の暑い日ではなく少し涼しくなった9月中旬に行った。
- ・容器に入った絵の具、筆、バスマット、ビニールシートをたくさん用意した。
- ・遊び方の見本や説明として、保育者もダイナミックに体に絵の具を塗って、絵の具の感触や色の変化などの楽しみを伝えた。

2歳児クラスの取り組み

<結果>

- ・天候もちょうど良く、長い時間楽しんで行うことが出来た。
- ・周囲の子が見えるようにしながら全員一緒に少しずつ絵の具を手にとって行ったので、苦手意識があった子も周囲の子が楽しんでいるのを見て、徐々に自分で絵の具に手を伸ばして楽しんでいた。
- ・小分けにした絵の具を多めに用意したことで、子ども達は分散し遊び込め、トラブルもなく行えて喜んでた。
- ・保育者も一緒に手足などに絵の具をたくさんつけ、色の変化の不思議やダイナミックに遊ぶ楽しさなどを子どもと共感できた。



○小麦粉粘土

- ・小麦粉に水や油、塩などを入れて小麦粉が変化していく様子を見せていった。
- ・小麦粉粘土が出来上がってからすぐに遊んだ。→冷蔵保存し、通常保育の時にも遊んだ。

<結果>

- ・間近で小麦粉が様々な形に変化する過程を見て、子ども達がワクワクしている様子が感じられた。
- ・出来上がった小麦粉粘土は、好奇心旺盛な子は積極的に触っていたが、苦手意識がある子はゆっくりと指一本から触れていた。保育者は気持ちが盛り上がるような声掛けをしながら一緒に感触を楽しみ、形のあるものなどを造形していくと、苦手意識を持っていた子も少しずつ手のひら全体で感触を楽しみ遊ぶことが出来ていた。
- ・まだ丸めたり細長くしたりが出来ない子も多かったので、粘土板などの型抜きを用意して押し当てて模様が出来るのを楽しんでいた。
- ・粘土がくっついた手を見せたり、形や模様が出来たりすると保育者に嬉しそうに見せていた。



○コーナー遊び

- ・遊ぶおもちゃの種類を増やし充実させた。
- ・牛乳パックを繋げて仕切りを作った。

<結果>

- ・遊びが分散する事でトラブルが減り、子ども達も遊び込めていた。
- ・遊び込める事で保育者や友達との関わりや、やり取りが多くなった。
- ・仕切りを追加したことで子ども達自身が、どこが何の遊びをするコーナーなのか分かりやすく、約束を守れる子が増えた。



○夏祭りごっこ(魚釣り・輪投げ)

- ・園行事の夏祭りが中止になったのでクラス単位で行った。
- ・夏祭り限定ではなく通年で遊べるように壊れにくく丈夫な魚釣りと輪投げを数多く作った。

<結果>

- ・釣竿を一人一本ずつ、ビニールの池も数か所に用意したことで順番待ちや場所の取り合いなどのトラブルも少なく長い時間、楽しむことが出来た。
- ・魚の外し方や糸が絡まってしまった時などの対処を行う事で子どもと保育者の関わりも出来た。
- ・保育者が大いに盛り上げ一緒に楽しみ、魚が釣れたり、輪投げの輪が入ったりした時にハイタッチをするなどスキンシップを取ると子ども達にも笑顔が多く見られた。



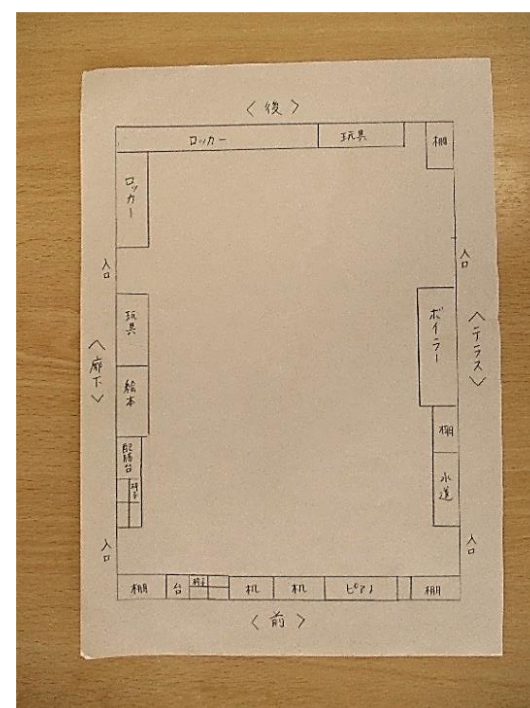
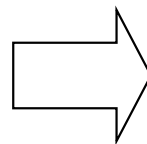
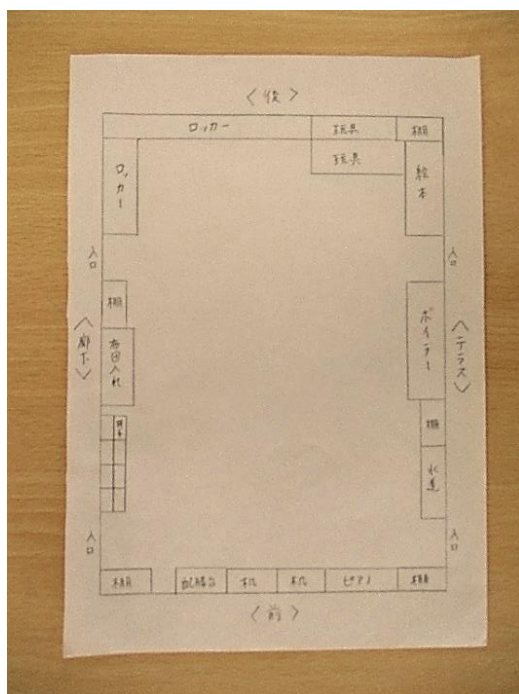
○生活しやすい環境構成

- ・動線などを考え、より生活しやすい環境を作る為、保育室のロッカーの配置などを変えた
- ・自ら進んで支度が行えるよう、表示などを分かりやすいものに変更した

＜結果＞

- ・死角がなくなり、動線が良くなった
- ・落ち着いて過ごせるようになった
- ・個人の把握が出来、褒めることが増えた
- ・支度を自分でスムーズに行えるようになった
- ・自ら玩具を取り出し、玩具を選択して遊べるようになった
- ・子どもの姿、活動の内容や行事などに合わせ、場所を変えていく必要がある

4歳児クラスの取り組み



子どもたちが自ら考えて選択できる環境構成や、3密状態をなるべく少なくするテーブル配置などを工夫した教室の様子



○玩具の選択、コーナー作り

- ・段ボールを使用したパーティションの作成
- ・おもまごとはより遊びが広がるようこたつ、冷蔵庫、電子レンジ、コンロなどを段ボールで作成した

〈結果〉

- ・集中して遊ぶようになった
- ・落ち着いて遊ぶようになった(座って遊ぶ・走り回らない)
- ・十分な量の玩具で選択して遊べるようになり、トラブルが減った
- ・困ったことを保育者に伝えられるようになった



～各クラスの取り組みから～

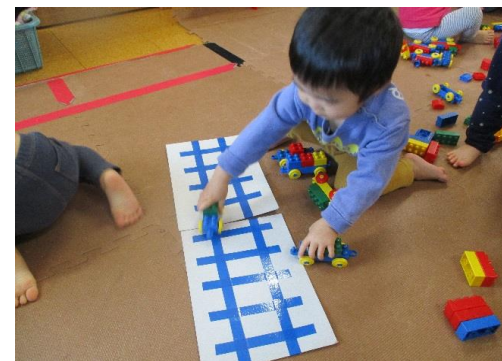
3歳未満児

《スキンシップや肯定的な言葉がけ》

- ゆったりと流れる日常保育から保育者との信頼関係が深まり、安心して園生活を送ることが出来ている
- 園児一人一人と接する時間が増えたことで、困ったときには自ら保育者の元へ助けを求めるようになった

《満足して遊べる環境作り》

- 大きな行事がなくそれに向けた練習などもなかったもので、どの学年も比較的のんびり過ごせた。そのことにより情緒の安定や失敗しても何度も挑戦できる時間が増え、それが自信に繋がり、物事に積極的になったり子ども同士の愛着が深まったりした



3歳以上児

《生活しやすい環境づくり》

- 生活の動線が良くなり活動がスムーズになった
- 遊びの場が確保され、落ち着いて過ごせるようになった
- 大きな行事も内容を変更し子どもの負担感が減り、いつもの年よりものびのび過ごせた。

《興味・関心に合わせた保育内容》

- 自分の好きな遊びを自由に選択し、遊びこむことで満足感が得られ、トラブルが少なくなった
- 更なる意欲や目標を持つことに繋がり物事に積極的になった

《頑張っていることや良いところを褒める》

- 承認されることで安心や自信に繋がり、失敗することを恐れずに挑戦するようになった
- 友達への意識が高まり、認めようとする姿が見られるようになった



まとめ

今年度は園内行事が減り例年通り行うことが出来なかったが、改めて保育を行う環境構成などに目を向けることで、行事に追われる保育から、日々の遊びを中心とした子ども主体の保育への切り替えが進んだ。そのことから、通常保育の充実は子どもにとって行事と同等以上の効果をもたらすことがわかった。また、職員にも行事の見直しは効果があったことがわかった。

3歳未満児クラス

- ・一人一人の職員が今まで以上に子どもと多く接することで、身近な大人という縦の信頼関係を今まで以上に早く築くことができた。
- ・未満児クラスの子どもたちは運動会や発表会などの大きな行事に対する興味関心は薄く、その練習時間を日常保育の充実にあてた今年度の子どもたちはのびのびと過ごせていた。

3歳以上児クラス

- ・信頼関係を基本として大人から承認されることにより意欲や自信に繋がり、1歩踏み出して挑戦したり友達という横の信頼関係を築いたりすることが出来ると感じた。
- ・子どもが自由に主体的に遊べる環境を構成したことにより、子どもたち同士の対話や、自分で考えて工夫して遊びこむ姿などが生まれてきた。

職員

- ・子どもとともに遊びを楽しみながら、時間をかけて遊びこむことによって、遊びの教育的意義や重要性を再認識した。
- ・「子どもが主体的に行事に取り組めるか」という観点からも行事を見直し、行事の本番に向けて練習を繰り返す日々にするのではなく、あくまでも行事は通過点として、次の遊びにつなげることを意識して取り組めた。

行事の意義については、子どもの生活を豊かにする、環境とのふれあいを広げる、機会教育になる、集団の形成に意義があるなどがあげられ、当園においても重要な役割を果たしているが、その実施にあたっては、日々の流れや子どもの主体的活動であることなど、常にその教育的価値を見直しアップデートをし続ける必要性を感じた。今後も様々な取り組みを続けていく中で、行事や日々の保育のアップデートを続け、更なる保育内容の充実を図り、私たちの教育・保育方針「イキイキ・ワクワク・ドキドキ」を目指した保育を行っていききたい